

非合理的利他主義者は一般交換状況で好まれるのか

脇野 拓海

本稿は、感情と利他行動について着目した。利他行動とは行為者がコストを支払って他者に利益を与える行動である。利他行動の中でも、隠された利益が無くても行うものを非合理的利他行動という。感情は非合理的利他行動の要因となっている。感情と利他行動の先行研究として神（2007）がある。神（2007）は、人々には合理的利他主義者よりも非合理的利他主義者を好むという対人感情特性があることが示した。しかし、具体的な状況が検討されていなかった。本研究では「評判」が考慮される一般交換状況を設定する。一般交換は利他行動が将来別の他者から報われるという仕組みであり、評判を基に行動することによって、その仕組みが支えられていることが示されている。本研究の目的は、一般交換状況で非合理的利他主義者が好まれるかどうかを検討することである。本研究では、真島（2010）を基に一般交換状況のシナリオを作成し、一般交換状況において合理的利他主義者よりも非合理的利他主義者が利他行動の相手として選ばれるのかを検証した。結果は、合理的利他主義者の方が非合理的利他主義者よりも印象が高かった。また、一般交換状況においては、非合理的利他主義者も合理的利他主義者も同程度利他行動の相手として選択された。両者ともに印象が低いわけではなかったため、利他行動をするということ自体が印象を高くしていることが考えられる。今後は、一般交換場面のシナリオの再検討をしていく必要があるだろう。